



# 朝日

大田区立松仙小学校  
令和4年 12月1日(木)  
裏研究推進だより 第14号  
研究推進担当

## 体育話題提供授業 協議会記録 授業者 教諭

記録・文責：

### 成果

### 課題&疑問

導入

#### ◎補助運動

- ・今回の運動に必要な動きを経験できるような3つの場が設定されていた。

#### ◎教師の言葉がけ

- ・教師の肯定的な言葉がけが良かった。
- ・教師がポイントを押さえながら褒めることによって、子供が楽しみながら動くことができていた。

#### ◎ゲーム、共有タイム

- ・ルールがシンプルで分かりやすかった。
- ・BGM を用いてスムーズに活動を切り替えられていた。
- ・ゲーム間の共有タイムで、よい作戦を伝えることができていた。
- ・両方から得点できる場が良かった。
- ・攻め方がシンプルかつ選択できたので児童がきちんと選べていた。

#### ◎まとめ⇒振り返りの流れ

- ・伝えタイムでは話型をもとにスムーズに話し合えていた。理由も言えてよかった。

#### ◎準備運動・補助運動

- ・3つの場で用意されていた「ボールを足で止める動き」が、ゲーム内にも反映されるとよいのではないか。
- ・インサイドキックは難しい。
- ・ドリブルも取り入れてみてはどうか。

#### ◎ゲーム

- ・児童が得点の入れ方を理解していなかった。
- ・選びタイムで選択した作戦と振り返りの時の作戦がずれている児童がいた。
- ・星の扱いについて意味があったのか。もらえても、もらえなくてもよいものになってしまっていないか。

#### ◎振り返り・学習カード

- ・個人の振り返りに入る前に本時のめあては何だったのかをきちんと教師の方で押さえてから取り組ませると、児童がめあてに沿って振り返りをする事ができるのでは。

展開

終末

### <授業者自評>

- ・「クラスの全ての児童がゲームを楽しめるように」という目標を自分の中でもって取り組み、達成することができた。
- ・学年の先生方が協力してくれたおかげで、今日の授業を迎えることができた。

### ☆「勉強になった！」ポイント☆

児童がとても楽しそうにゲームをしている姿を見て、やはりルールの分かりやすさや「卵わり」という設定は児童が楽しむうえで大切なのだと感じた。先生の声掛けで児童の蹴る動作が向上する場面を見ることができたので、教師がポイントを理解して伝える大切さを改めて感じることができた。例えば、守るときも足を使ってボールを防ぐなど、より足を使う動きに特化してゲームを構成すると、より本単元で身に付けさせたい動きを経験できるのではないだろうか。

## 指導・講評

### ☆低学年ではストーリーを大切に！

いかにその単元に夢中にさせるかが、低学年では特に大切になってくる。「〇〇ランド」や「〇忍者」など、児童がその世界観にのめりこめるようなストーリーを構成することが授業の成否に大きく関わってくる。さらに1単位時間のストーリーも意識してメリハリのある指導を心がける。また、児童の実態にもよるが、得点を可視化することで、自分やチームの成長が実感できるようにすることも大切である。

### ☆用具の工夫

例えば…

- ・レジ袋新聞紙ボール：軽い、転がりにくい。
- ・空気を抜いた重いボール：強く蹴る必要がある。足に当たる面積が増える。

など、ボールの状態によってその扱い方が変わってくる。ボールはその単元の狙いに応じて変える必要がある。

### ☆【蹴る動き】低学年の指導ポイントは2つ

- ・強く、狙ったところに蹴ることを目指す
- ・足の裏を見せるように、足を振る

その学年でどこまで指導するのかを確認しておくこと。児童に無理のない範囲で、6年間の系統立てた技能の習得を意識する。

### キラリと光る付箋 文責：

<単元の設定>

- ・「たまごわりサッカー」という設定が、ボールを蹴る運動への意欲や必然性につながっていた。

- ・簡単なルールで、苦手な子でも得点が入って嬉しそうだった。

<場の設定>

- ・場を工夫していて、ローテーションで回ることができていた。
- ・音楽、曲の切りかえで自然と活動に取り組んでいた。

<伝え合い>

- ・1人ずつ順番に伝えていて、互いの考えを理解し合っている。
- ・「えらびタイムだから…」と、タイムの意味を理解し、自分から選んだ作戦を伝えていた。
- ・伝え合いの活動が定着し、どの子も自分の攻め方を言っていた。
- ・話型があることで、思ったことや考えたことを伝える手助けになっていた。

<言葉かけ>

- ・先生の指導や助言のもと、自信をもつことができ点数を入れることができていた。
- ・先生の声掛けで、ボールを強く蹴ることができるようになっていた。

日々の体育の学習の中でどの学年でどこまで指導するのか、学校として決めておかなければいけないことだと感じている。話題提供授業を通して見えてきた成果や課題を基にして、6年間を見据えた体育の指導内容を考えていきたい。